

## 差別への対抗 語らぬ政治

写真は朝日新聞 9 月 27 日朝刊。相模原市の障害者施設で刺殺された入所者 19 人の月命日にあたる 26 日。障害者や支援者ら約 300 人が東京都の中心街でアピール行進を行った。同紙 9 月 24 日朝刊「記者有論」で、南彰記者が表題のように「事件と政治」について書いているので、抜粋して紹介したい。



19 人の死を悼む献花台は、国会から 60 キロの山あいにあった。「犠牲者諸精霊」とくくられた塔婆が立てかけられている。手を合わせた後、自問した。「『共生社会』と言いながら、本当に分かち合うための言葉を自分たちは紡げていたのだろうか」

相模原市の障害者施設で 7 月 26 日に起きた殺人事件。「障害者は不幸を作ることしかできません」。差別意識をむき出しにした容疑者の犯行予告だった。通常の犯罪とは違う。差別の助長や黙認を断ち切るための言葉が必要だと思った。しかし、その先頭を担うべき政治家の口は重かった。記者の追及も積極的だったとは言えず、政治の不作為を増長させたのかもしれない。「もっとしっかり訴えた方がいいのではないですか」。そう取材先にぶつけていくと、政治家たちが語らない理由はそれぞれあった。

国会内での会議で「メッセージを出して欲しい」と訴えていた尾上浩二・障害者インターナショナル日本会議副議長を訪ねた。事件後、「周りの人も容疑者と同じようなことを思っているのではないか」とおびえる声が寄せられているという。「有力な政治家が高齢者に『いつまで生きているつもりだ』と発言していることと通底している。重大な問題にせず、『そうだ』と喝采する雰囲気がかつたのだろうか。対抗言説が弱いんです」障害者に不妊手術を強いた優生保護法がなくなったのは 20 年前だ。今年 4 月には障害者差別解消法が施行された。だが、その前提となる共生の理念が行き届いていない現実を事件は突きつけている。移民差別に基づく爆破・銃乱射事件が 2011 年に起きたノルウェーでは国政で議論を重ねた。首相は「相手をもっと思いやることが暴力に対する答え」と訴え、1 年後の追悼集会では「国民は価値観を尊重することで応じた。殺人者は失敗した」と宣言している。日本の国会が 26 日に始まる。社会の連帯を確認し合う政治の言葉を引き出せるように努めたい。

国会で安倍首相が演説中、規律違反の起立をして「拍手喝采」するような自民党議員を見ていると、あまりに悲しく怒りがつのる。今回の事件をしっかりと踏まえ、障害者差別を解消するために、草の根から「政治の言葉」を引き出していかねばならない。

(2016 年 10 月 1 日)